



豪州準備銀行は2会合連続で0.5%の利上げを決定

- RBAは0.5%の利上げを決定し、政策金利を1.35%へ引き上げ。ロウ総裁は今後の追加利上げの継続を示唆。
- RBAはインフレが年後半にピークを迎えると予想。経済見直し改定が予定される次回8月2日の会合が市場の焦点に。

RBAは市場予想通りとなる0.5%の利上げを決定

豪州準備銀行(RBA)は7月5日の理事会において、市場予想通りとなる0.5%の利上げを決定しました(政策金利は1.35%へ引き上げ、図1)。0.5%の利上げは前回6月7日の理事会に続いて2会合連続となります。

フィリップ・ロウ総裁の声明文では、「今後数カ月にわたって豪州の金融環境の正常化に向けた追加措置を採ることを見込む」と述べられ、今後の追加利上げの継続が示唆されました(図2)。ブルームバーグ集計の市場予想では、RBAの政策金利は2023年3月末には2.60%へ引き上げられるとの見方が大勢となっています。

RBAはインフレが年後半にピークを迎えると予想

RBAの今後の金融政策をめぐる当面の注目は、インフレと景気の動向に集まりそうです。

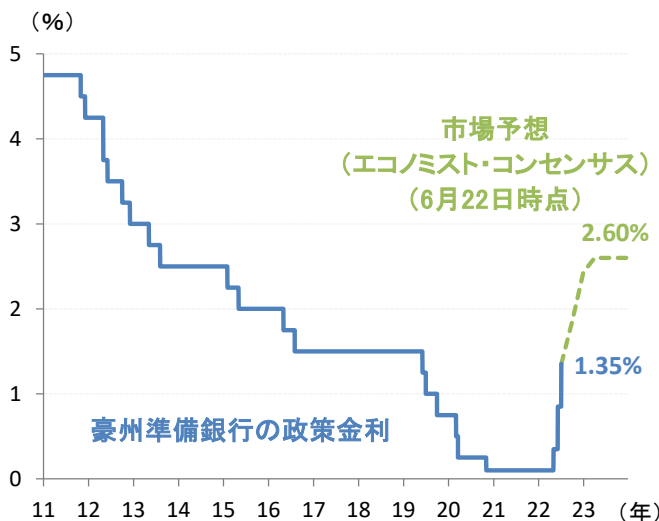
今回のRBAの声明文では、「インフレ率は今年後半にピークを迎え、来年には2-3%のレンジに向かって低下すると予想される」、「世界的な供給問題が緩和し、コモディティ価格が高水準であっても安定化するにつれ、インフレ率の鈍化が予想される」との見通しが示されました。

一方、景気判断に関しては、RBAは「豪州経済は引き続き底堅く、労働市場はこれまでよりもひっ迫している」との前向きな見方を維持しています。もっとも、RBAは経済見通しの不確定要素として、インフレや金利上昇を受けた個人消費への影響を注視する姿勢を示しており、今後は個人消費の回復の持続性が焦点となる可能性があります。

経済見直し改定が予定される次回会合が焦点に

当面のスケジュールとしては、7月27日に豪州の消費者物価指数(2022年2Q)の公表を受けて、8月5日にRBAの経済見通しの改定が予定されています。今後のRBAの金融政策の方向性を探る観点からは、次回8月2日のRBA理事会に市場の注目が集まりそうです。

図1:豪州の政策金利と市場予想



(出所)ブルームバーグ

(期間)実績:2011年1月3日~2022年7月5日

市場予想:2022年9月末~2023年12月末

図2:豪州準備銀行(RBA)理事会の声明文要旨

- インフレ率は今年後半にピークを迎え、来年には2-3%のレンジに向かって低下すると予想される。世界的な供給問題が緩和し、コモディティ価格が高水準であっても安定化するにつれ、インフレ率の鈍化が予想される。
- 豪州経済は引き続き底堅く、労働市場はこれまでよりもひっ迫している。
- 理事会は豪州の個人消費(インフレや金利上昇の影響)や、グローバル経済の動向を注視している。
- 理事会は、今後数カ月にわたって豪州の金融環境の正常化に向けた追加措置を採ることを見込む。
- 理事会は豪州のインフレ率が時間とともに目標値に戻ることを確かにするため、必要な措置を講じる用意がある。

(出所)豪州準備銀行